

組合員総出で大規模火災現場のがれきを撤去 ～ボランティア活動で地域に貢献～

山梨県重機・
建設解体工事業協同組合

社会貢献活動（CSR）の一貫として安全・安心のまちづくりに貢献するためのボランティア活動を行ってきた山梨県重機・建設解体工事業協同組合（小田切昭理事長 組合員 19 社）は、北杜市でがれき撤去作業に取り組んだ。

今年 3 月に北杜市須玉町小尾和田地区で 38 棟が焼失などした大規模火災では、大半が空き家で、所有者の高齢化により撤去に必要な人手も資金も不足しており、市も対応に苦慮する中で撤去がなかなか進まずにいた。その状況を知った組合が市に協力を打診、市内の複数のボランティア団体と協力してのがれき撤去作業となった。

6 月 15 日から 25 日までの 10 日間、組合員全 19 社総出で述べ 62 名が参加し、グラップル付きバックホーや大型ダンプなどの大型重機を動員、



大型重機による撤去作業

がれき・コンクリート類や燃え殻等の撤去を行った。組合員企業の現場管理者と組合事務局で各社の作業日程の調整や進捗管理を行うことで、作業は安全第

一で素早く進められ、後日、組合には北杜市長より感謝状が贈られた。

近年、少子高齢化による人口減少や若者流出により、全国的に空き家が増加傾向にあり、今回のように放置されたまま老朽化した空き家は、防災や防犯、衛生、景観などの面で地域社会の深刻な問題となっている。

小田切理事長は「解体工事業は、環境意識の高まりや老朽化建築物の急増により重要性が増したことで平成 28 年には建設業許可業種に追加された。建物の解体工事では地域住民の理解が必要不可欠であり、組合では地域への貢献と専門業者としての PR を目的に定期的に社会貢献活動を行っている。今回のボランティア活動では全組合員の協力のもと専門業者としての技術を遺憾なく発揮できたと自負しており、今後も市町村と連携した空き家対策事業に協力していきたい。」と語った。



感謝状贈呈式
(右から坂本副理事長、上村北杜市長、浅野副理事長、事務局知見氏)

